

## 基本三部作 2. 鎔絵の見どころ

- (1) 鎔絵の鎔の技の冴え
- (2) 鎔絵の美しい色
- (3) 背景の思想

## (1) 鎔絵の鎔の技の冴え

### 鎔の技の冴え

特に十二支に見られる、形状の決定と  
描写力は、鎔とは思えぬ凄さ。

### 細かな表現

### 生き生きとした動きの表現

細かな表現

南面の二階の酉



東面の軒下の龍  
(龍は東の守護神)



南面の二階の酉  
(拡大)



ニワトリの羽の描写力

堂々とした姿

背景の植物の色彩との調和

全体のバランスにも優れ、  
仏画のような厳かさえ感じる。

## 東面の軒下の龍（龍は東の守護神）



龍のまわりの透かし彫り的な表  
現と、宙に舞うヒゲ。

東面の守護神にふさわしい  
最高の作品だと思います。

## 生き生きとした動きの表現

多くの動物は、生き生きと表現されている。

特に、北面二階の四匹、四頭は  
冴えている。



皆さん、特に「子」については、遠く、小さいので、その技の冴えを見落としています。じっくり見ていただきたい。デジカメに撮って、後で拡大して確認してください。口、目、耳の頭部、そして四肢の生き生きとした動きは、最高の出来だと思います。



酉と、甲乙つけがたい。

口、目、耳の表現も、巧み。

この動きは、北面二階の四枚、  
全てに当てはまる。  
鎧絵蔵のなかのトップレベルの出来。



また、これらの動物は全て単色な  
のです。  
饅だけで、この生き生きした姿を  
表現しきっています。

## (2) 鎏絵の美しい色



一番は、鳳凰の青だと思います。

青は、輝いています。

九十年間、風雨に晒されていたとは信じがたい輝きです。



鎧絵の青は、ラピスラズリ、プルシャンブルーを使い分けていると思います。さらに最近、ラズライトも使われていると云われています。



左上から時計回りに、Prussian blue, Indigo, Azurite, Ultramarine (lapis lazuli)

# 青の輝き(蛍光)の秘密

基本: プルシャンブルー +

蛍光: ラビスラズリの成分、ノゼアン

Table Lapis lazuli is a composite of the following several ores.

Ore Component	Chemical formula	Fluorescence property
Lazurite Also known as Ultramarine	$(\text{Na},\text{Ca})_8(\text{AlSiO}_4)_6(\text{SO}_4,\text{S},\text{Cl})_2$	Main component of lapis lazuli, above 30–40%. No fluorescence.
Nosean, Noselite	$\text{Na}_8\text{Al}_6\text{Si}_6\text{O}_{24}(\text{SO}_4)\text{H}_2\text{O}$	Fluorescence in the visible light region
Sodalite	$\text{Na}_4\text{Al}_3(\text{SiO}_4)_3\text{Cl}_6$	Fluorescence in the Ultra-violet light region
Hauyne	$(\text{Na},\text{Ca})_{4-8}\text{Al}_6\text{Si}_6(\text{O},\text{S})_{24}(\text{SO}_4,\text{Cl})_{1-2}$	No fluorescence in powder state

ノゼアン  
～可視光での  
蛍光性

# Expected pigments used in Kote-E

~Referred the book 「Murals in the Silk Road, (japanese)」, Gensousya(2007)

	Pigment/ Dye	Chemical formula	Takamatsuzuka
White	white chalk	$\text{CaCO}_3$	○
	white clay	$\text{Al}_2\text{Si}_2\text{O}_5(\text{OH})_4$	○
	talc	$\text{Mg}_3\text{Si}_4\text{O}_10(\text{OH})_2$	
	gypsum	$\text{CaSO}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$	
	mica	$\text{KAl}_2\text{AlO}_1(\text{OH})_2$	
Green	verdigris	$\text{CuCO}_3 \cdot \text{Cu}(\text{OH})_2$ $\text{Cu}_2(\text{OH})_3\text{Cl}$	○
Red	cinnabar	$\text{HgS}$	cinnabar, vermillion
	iron-oxide red pigment	$\text{Fe}_2\text{O}_3$	Bengala
	riaruga	$\text{AsS}$	
Blue	azurite	$2\text{CuCO}_3 \cdot \text{Cu}(\text{OH})_2$	○
	ultramarine	$(\text{Na, Ca})_8(\text{AlSiO}_4)_6(\text{SO}_4\text{S}_3\text{S}_3\text{Cl})_2$	
Black	Sumi	$\text{C}$	
	iron oxide black	$\text{Fe}_3\text{O}_4$	
Artificial pigment	vermilion	$\text{HgS}$	
	white lead	$2\text{PbCO}_3 \cdot \text{Pb}(\text{OH})_2$	○
	minium	$\text{PbO}_4$	

### (3) 背景の思想

十二支

四神、四方の守護神

四靈

日本の縁起の良いシンボル

十二支  
子、丑、虎、卯、辰、巳、  
午、羊、申、酉、戌、亥

四神  
青龍、白虎、朱雀、玄武

四靈  
忼龍、麒麟、鳳凰、靈龜

仁太郎さんは、これらについて、何も言葉を残していません。でも、何かがあるはず…。

国家、そして地域の安寧

子孫繁栄

商売繁盛



## 『単色の持つ力』

鎧の技は、北面二階が勝っていると思います。  
東面の四神・四靈も、少ない単色で表現しきって  
おり、しかも「靈力」は、こちらが上に感じられます。

個人的には、土蔵の入口・受付の多色の四枚  
も含め、この東面の単色鎧絵に感動しています。  
この単色で表現しきったことが、「単色の持つ  
鎧絵の力」となり、これこそが鎧絵の力であり、  
白壁との対比の美を含め、機那サフラン酒が  
「鎧絵の横綱」と云われる由縁のひとつでは、  
ないでしょうか。